



▲城山小学校での認知症学習の様子

①認知症ってなあに？
認知症がどんな病気か、認知症になるとどうなるかについて学んでもらいます。
クイズを交えて、認知症と物忘れの違いを考え、さらにDVDを見ながら「食べたことを忘れる」などの認知症状や家族の対応について学び、自分ならどうするか考えてもらいます。

学校における認知症学習
市では、学校での認知症学習に力を入れています。
ここでは小学4年生から6年生の児童を対象とした認知症学習の内容を紹介します。

(5)相手の言葉に耳を傾けゆっくり対応する。
寸劇の後、児童による声掛け訓練を行います。困っているお年寄り役の人に話しかけてサポートすることの難しさを体験してもらいます。

②認知症の人への接し方を考えよう
キャラバンメイトによる道に迷う認知症の人の寸劇から具体的な対応のポイントを考えてもらいます。
(1)まずは見守る。
(2)声をかける時は、複数ではなく1人で。
(3)後ろから声をかけない。
(4)目線を合わせてやさしい口調で話す。



▲高野口小学校での認知症学習の様子

④オレンジリングプレゼンテーション
絵本の読み聞かせをし、家族が認知症になったらどうするか考えてもらいます。認知症サポーターの証であるオレンジリングを手に掲げ、今日からサポーターの一員です。



▲橋本小学校での認知症学習の様子

③グループワーク「家族や地域の人が困っていたらどうする？」
困っている高齢者を地域で見つけたら自分なら何ができるかなど、グループで意見を出し合ってもらいます。
「元気良く挨拶をして、お年寄りとの距離を縮める。」
「1人では不安だけど、勇気を出して、困っている人を助けたらと思った。」などさまざまな意見が出てきます。

次のページでは認知症学習を受けた児童の感想文と、保護者から児童へのメッセージを紹介します。
また、講師のキャラバンメイトさんに、小学校での認知症学習に参加した感想をお伺いしました。



⑤認知症学習を終えて
認知症学習では「児童だけの学びにしない」ということを大切にしています。学習内容を家族に伝えることを宿題にし、話を聞いた家族から児童へのメッセージを書いてもらって学校へフィードバックします。一人ひとり感じたこと、学んだことを家族に伝えることによって、認知症について家族全員で話をする機会にもなっています。



柱本小学校での声掛け訓練

シルバーライフに輝きを。

～高齢者の福祉を身近にわかりやすく～

きらり

vol.50 2019.6

主な内容

- ▶笑顔で広げよう 認知症の理解
- ▶新しいげんきらり～自主運営教室が始まりました
- ▶伊都中央高等学校とげんきらり～自主運営教室の交流会を開催しました
- ▶100歳おめでとうございます

編集・発行
健康福祉部いきいき健康課

認知症とは

認知症は、さまざまな原因で脳細胞が壊れ、脳の働きが悪くなることによって起こる病気です。

高齢になると誰もが発症する可能性があり、2025年には65歳以上の高齢者のうち5人に1人が認知症になると見込まれています。
認知症は他人事ではなく、自分や大切な人にも起こり得る病気です。



認知症サポーターとは

認知症サポーターとは、認知症について正しく理解し、偏見を持たず、認知症の人や家族を見守る応援者として、自分のできる範囲で活動する人のことです。市内で登録されている認知症サポーターは4,680人のほりります。
本人や家族だけでなく、地域住民一人ひとりのさりげない声掛けや応援によって認知症になっても安心して暮らすていくことができます。そのため、より多くのサポーターの力が必要です。

笑顔で広げよう 認知症の理解

「家族や身近な人、または自分自身が認知症と診断されたらどうしよう」と不安になったことはありませんか。
市では、市内の学校や企業などさまざまな団体を対象に、認知症について正しく理解し、認知症の人やその家族を見守り、支援する「認知症サポーター」の養成を進めています。
認知症になっても、誰もが住み慣れた地域で安心して生活を送れるよう、認知症サポーターの輪を広げていきましょう。